

11 水防に関する資料

資料11-1 水防資器材

1 町保有水防資器材

○佐呂間町役場：佐呂間町字永代町3番地の1

品名	数量	品名	数量
スコップ	34丁	掛矢	2丁
かま	1丁	つるはし	4丁
ペンチ	1丁	ヘルメット	60個
投光器（4灯式）	2基	ロープ	2巻
投光器（バルーンタイプ）	10基	袋型根固（スーパー土のう）	100個
懐中電灯	50個	土のう袋	2,200袋

2 消防機関保有水防資器材

○遠軽地区広域組合消防署佐呂間出張所：佐呂間町字幸町5番地の1

品名	数量	品名	数量
スコップ（剣先）	21丁	スコップ（角）	12丁
掛矢	5丁	かま	19丁
おの	3丁	くわ	5丁
つるはし	14丁	胴長	13足
懐中電灯	11個	投光器	1機
担架	1台	ロープ	5巻

○佐呂間町消防団第2分団車庫兼詰所：佐呂間町字浜佐呂間233番地の1～2

品名	数量	品名	数量
スコップ（剣先）	11丁	スコップ（角）	8丁
掛矢	1丁	かま	8丁
おの	1丁	くわ	10丁
つるはし	2丁		

○若佐コミュニティ消防センター：佐呂間町字若佐86番地・102番地の1

品名	数量	品名	数量
スコップ（剣先）	4丁	スコップ（角）	6丁
かま	18丁	おの	1丁
くわ	4丁		

3 水防用土砂

水防区域	土砂堆積、採取場所	所在地
佐呂間町全域	佐呂間町知来採石場	佐呂間町字知来
	佐呂間町啓生採石場	佐呂間町字啓生
	佐呂間町北採石場	佐呂間町字北
	佐呂間採石工業株式会社	佐呂間町字富丘

(注) 採取場所の指定はあっても、その時の状況により臨機応変に対処するものとする。

資料11-2 水防工法

1 土俵の作成

用途 各種工法の積土俵・おもり土俵及び詰土俵

作り方 (1) 麻土俵の作成

約40kg (ショベル10~13杯) 土を締めながら入れ口締めをする。麻袋が大きい場合は1~2箇所網で十分締め胴締めをする。

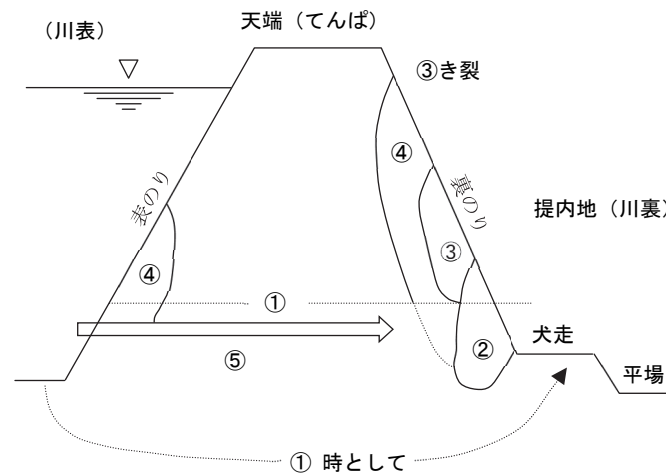
(2) かます土俵の作成

土を各部均等に入れたのち入口を巻いて1~2箇所胴締めをする。

2 河川堤防の破堤と水防工法

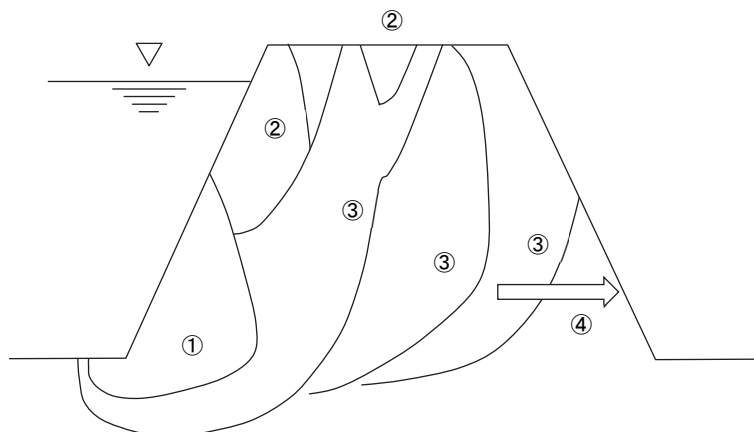
破堤の原因と過程

- (1) 越水 (溢水) — (積土俵・じやかご積み等)
- (2) 漏水 (滲漏) — (苙 (ビニールシート) 張り・月の輪等)



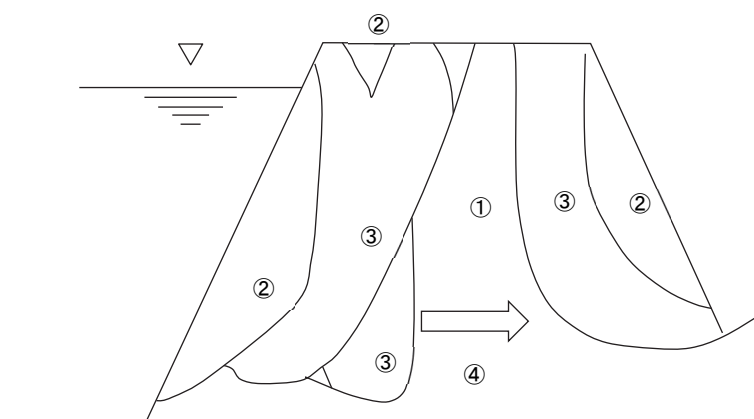
- ① のり尻あるいは堤内地に水が噴出又は湧出する。
 - ② 漏水孔から土砂が流出し逐次拡大する。
 - ③ 堤体は軟弱となり、のりくずれ、あるいはき裂を生ずる。
 - ④ のりくずれが続き、洗堀も生じかつ漏水孔も拡大する。
 - ⑤ 通常漏水孔は一挙に吹き出し破堤する。
- ※ 裏のり全体から水がしみ出ている場合は、一挙に破堤することは少なく、漏水口を生じて上記の過程を経ることが多い。

(3) 洗堀 — (木流し、三基枠等)



- ① 土砂等を含んだ激流がのり面及びその基部を洗堀する。護岸がはく離されると洗堀は促進される。
- ② のりくずれ・き裂を生ずる。
- ③ しだいに表のりの洗堀のりくずれが増大し、堤防の断面積は小さくなる。
- ④ 漏水を生じ破堤するか、水圧に抗しきれないで押し流される。

(4) のりくずれ — (五徳縫い・抗打ち積土俵・土俵羽口等)



- ① 長期間の高水位により堤体が飽水状態となると、土の摩擦力が減少する。
- ② き裂あるいはのりくずれを生じ、のり面はすべり落ちる。
- ③ のりくずれ洗堀が続き、堤体の断面積は逐次減少する。
- ④ 堤体が水圧に抗しきれないようになるか、あるいは漏水等の作用で破堤する。

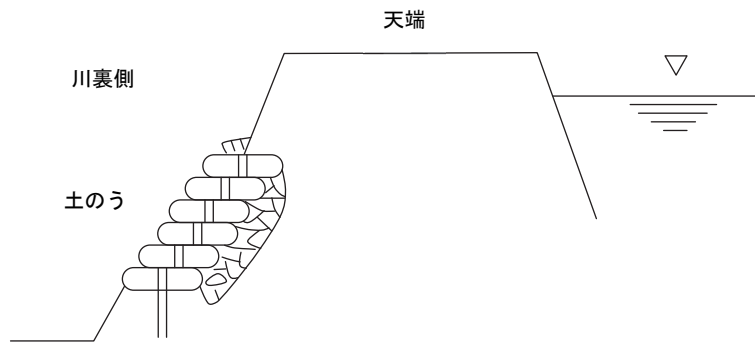
(5) き裂 — (折り返し・抗打ちつなぎ等)

3 河川堤防の水防工法

(1) 土俵羽口

目地 裏のり崩壊補強 (減水したのち洗堀された表のりの補強にも可)

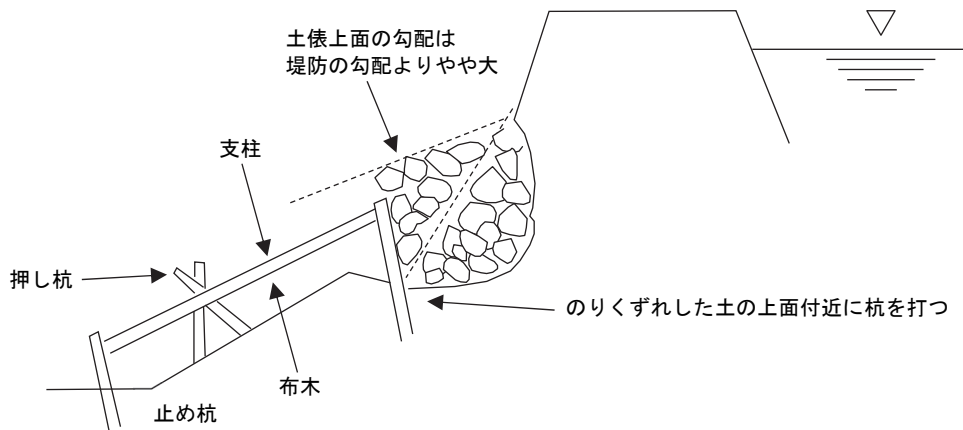
作成法 底部をおおむね水平にならし、土俵を小口並びに一層積んで杭を打ち安定をはかる。
土俵の間隔と裏には土を入れよく固める。2段目から同じ要領で原形ののり面に添う様に積み上げる。



(2) 杭打積土俵

目的 川裏法・崩壊防止

作成法 のり先に土俵を長手に積み上げその支え、長さ2.5m内外の杭を0.6m毎芯々に打込み、一部に布木を結びつけこれに支柱を数m毎、設置し転倒を防止する。支柱の中間に押え杭、根元には止杭を設置する。

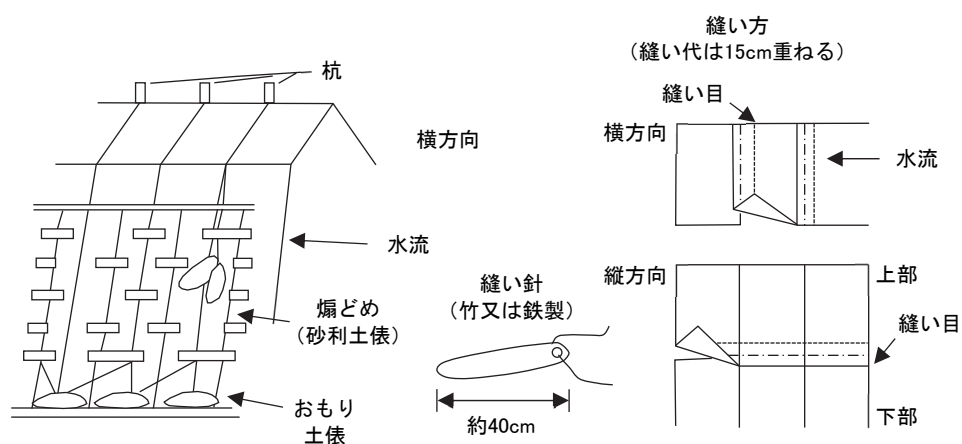


(3) 蓆（ビニールシート）張り

目的 川表のり面崩壊及び透水防止

(のみ口が確認出来るとき、確認されたのみ口が直接閉塞出来ないとき、漏水を防止する。昼でも可)

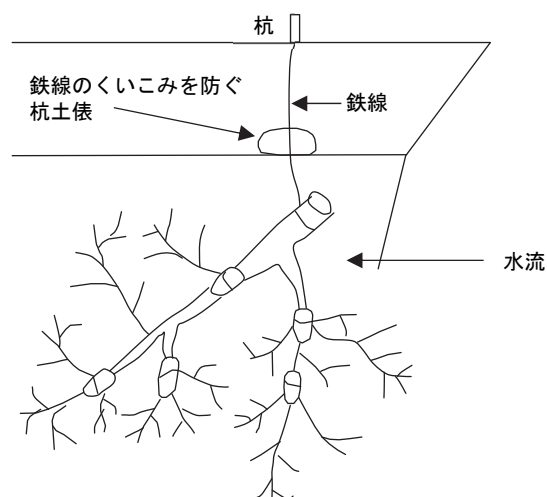
作成法 幅3枚、長さはおのり尻までの蓆を縫い合せ、横に約50cm間隔にあらし竹(代用可)を縫い付け、おもり土俵を最下端に蓆1枚に1俵の割で取付けこれを芯にして簀の子巻とし、天端から網により徐々に垂れおろし煽どめの土俵をのせて固定する。



(4) 木流し

目的 急流部流速を緩和し洗堀予防、川表法面、崩壊の拡大防止に用いる。

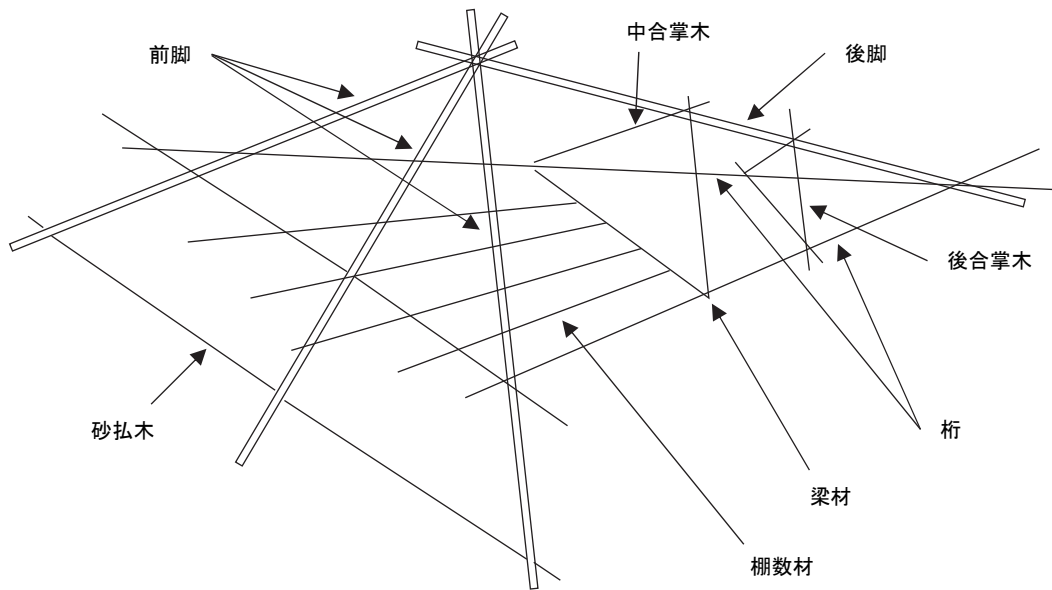
作成法 樹木を根本から切り、枝におもり土俵（又は石俵）を付け、根本は鉄線で縛りその一端を留杭に結束して上流より流しかけて崩壊面に安定させる。



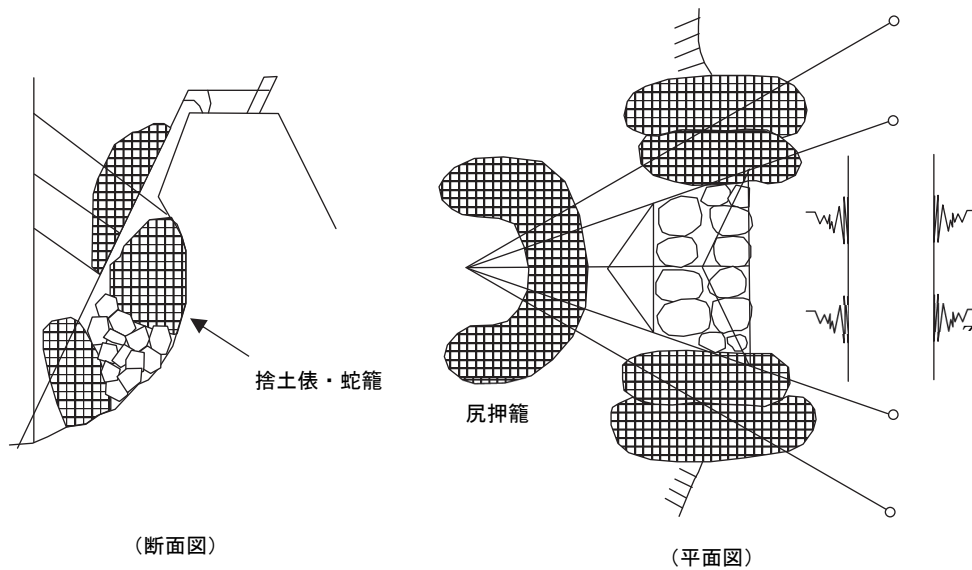
(5) 三基枠

目的 流水の激突を緩和し、堤脚崩壊面の拡大防止

作成法
 ア 前脚と桁・後脚の結束（前脚と桁は直角）
 イ 中合掌木の結束（結束は鉄線により十字結び・斜め結び）
 ウ 砂払木の結束
 エ 棚数材の結束



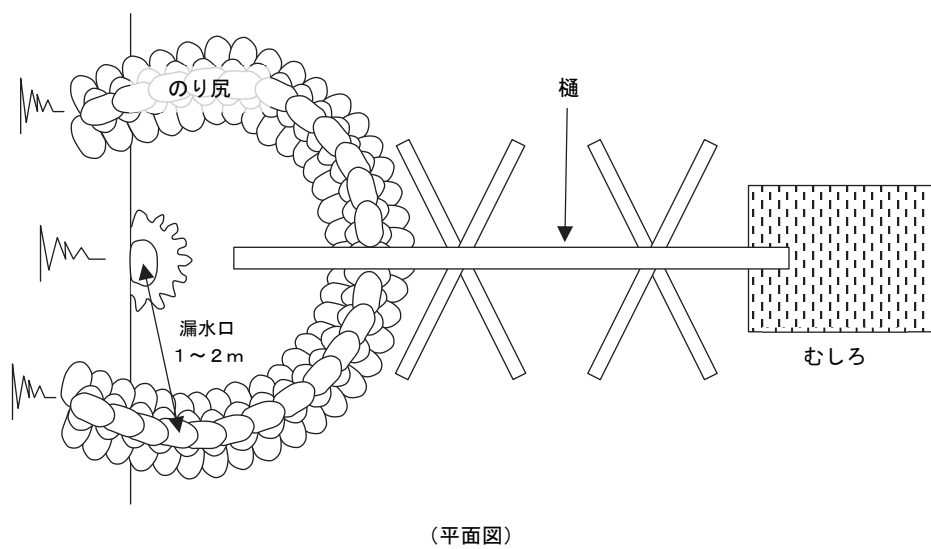
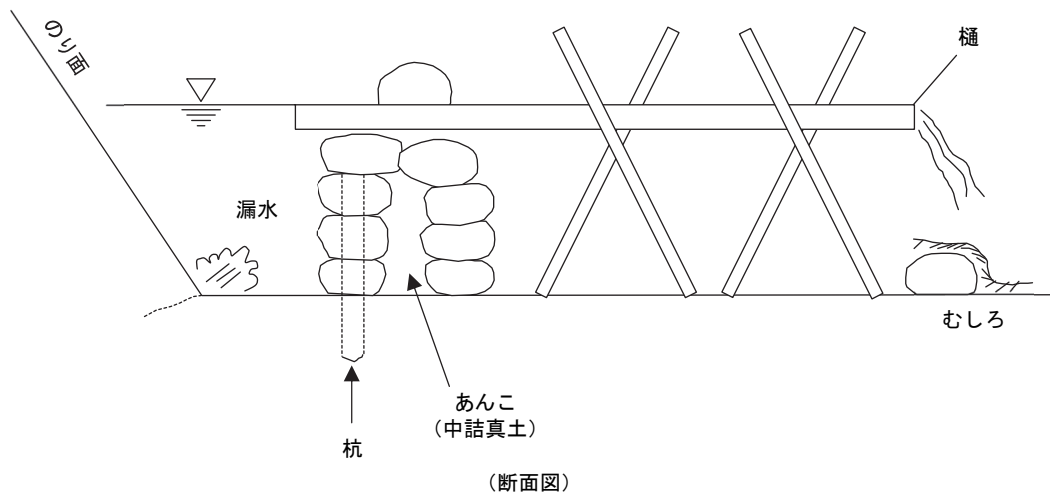
人力設置（作業中ののりくずれに特に注意）



（6）月の輪

目的 川裏の漏水を、土俵堤を築造して漏水圧を弱める。

作成法 漏水口の周囲に土俵を半月状（半径1.2m～2.0m）に積上げ、この中に漏水を淀ませて上透水を堤内の水路等に放流させる。土俵積の高さは水压を弱める程度とする。土俵堤の安定をよしとするため柱を打つ。透水は樋を作り土俵堤から放水させ流水口には筵をあて洗掘を防ぐ。



資料11-3 水防工法一覧表

原因	工法	工法の概要	利用箇所、河川	おもに使用する資材
				現在
水があふれる (越水)	積み土のう工	堤防の上端(天端)に土のうを数段積み上げる	一般河川	土のう、防水シート、鉄筋棒
	せき板工	堤防の上端(天端)にくいを打ちせき板をたてる	都市周辺河川(土のうの入手困難)	鋼製支柱、軽量鋼板
	蛇かご積み工	堤防の上端(天端)に土のうの代わりに蛇かごを置く	急流河川	鉄線蛇かご、玉石、防水シート
	水マット工 (連絡水のう工)	堤防の上端(天端)にビニロン帆布製水マットを置く	都市周辺河川(土のう、板など入手困難)	既製水のう、ポンプ、鉄パイプ
	裏むしろ張り工	堤防の居住側堤防斜面(裏のり面)をむしろで被覆する	あまり高くない堤体の固い箇所	むしろ、半割竹、防水シート、鉄筋ピン、軽量鉄パイプ、土のう土俵
	裏シート張り工	堤防の居住側堤防斜面(裏のり面)を防水シートで被覆する	都市周辺河川(むしろ、竹の入手困難)	土のう、防水シート、鉄筋棒、ビニールパイプ
漏水	居住側 (川裏) 対策	釜段工 (釜築き、釜止め)	裏小段、居住側堤防斜面(裏のり)先平地に円形に積み、土俵にする	一般河川 土のう、防水シート、鉄筋棒、ビニールパイプ
		水マット式 釜段工	裏小段、居住側堤防斜面(裏のり)先平地にビニロン帆布製中空円形水マットを積み上げる	都市周辺河川(土砂、土のうの入手困難) 既製水のうポンプ、鉄パイプ
		鉄板式釜段工 (簡易釜段工)	裏小段、居住側堤防斜面(裏のり)先平地に鉄板を円筒形に組み立てる	都市周辺河川(土砂、土のうの入手困難) 鉄板、土のう、パイプ、鉄パイプぐい
		月の輪工	居住側堤防斜面(裏のり)部によりかかり半円形に積み土俵する	一般河川 土のう、防水シート、パイプ、鉄筋棒
		水マット 月の輪工	裏小段、居住側堤防斜面(裏のり)先にかかるようにビニロン帆布製水のうを組み立てる	都市周辺河川(土砂、土のうの入手困難) 既製水のう、くい、土のう、ビニロンパイプ

原因		工法	工法の概要	利用箇所、河川	おもに使用する資材
					現在
漏水	居住側（川裏）対策	たる伏せ工	裏小段、居住側堤防斜面（裏のり）先平地に底抜きたる又はおけを置く	一般河川	たる、防水シート、土のう
		導水むしろ張り工	居住側堤防斜面（裏のり）、犬走りにむしろなどを敷きならべる	一般河川（漏水量の少ない箇所）	防水シート、丸太、竹
漏水	川側（川表）対策	詰め土のう工	川側堤防斜面（川表のり面）の漏水口に土のうなどを詰める	一般河川（構造物のあるところ、水深の浅い部分）	土のう、木ぐい、竹ぐい
		むしろ張り工	川側（川表）の漏水面にむしろを張る	一般河川（水深の浅い所）	むしろ、竹、土のう、竹ピン
		継ぎむしろ張り工	川側（川表）の漏水面に継ぎむしろを張る	一般河川（漏水面の広い所）	むしろ、なわ、くい、ロープ、竹、土のう
		シート張り工	川側（川表）の漏水面に防水シートを張る	都市周辺河川（むしろが入手困難）	防水シート、鉄パイプ、くい、ロープ、土のう
		たたみ張り工	川側（川表）の漏水面にたたみを張る	一般河川（水深の浅いところ）	土俵の代わりに土のう
深掘れ（洗堀）		むしろ張り工、継ぎむしろ張り工、シート張り工、たたみ張り工	漏水防止と同じ	芝付き堤防で比較的緩流河川	漏水防止と同じ
		木流し工（竹流し工）	樹木（竹）に重り土のうをつけて流し、局部を被覆する	急流河川	立木、土のう、ロープ、鉄線、くい
		立てかご工	川側堤防斜面（表のり面）に蛇かごを立てて被覆する	急流河川 砂利堤防	鉄線蛇かご、詰め石、くい、鉄線
		捨て土のう工 捨て石工	川側堤防斜面（表のり面）決壊箇所に土のう又は大きな石を投入する	急流河川	土のう、石異形コンクリートブロック
		竹網流し工	竹を格子形に結束し土のうをつけて、堤防斜面（のり面）を被覆する	緩流河川	竹、くい、ロープ、土のう
決壊		わく入れ工	深掘れ箇所に川倉、牛わく、鳥脚などの合掌木を投入する	急流河川	わく組み、石俵、鉄線、蛇かご

原因		工法	工法の概要	利用箇所、河川	おもに使用する資材
					現在
決壊		築きまわし工	堤防の川側（表）が決壊したとき、断面の不足を居住側堤防斜面（裏のり）で補うため杭を打ち中詰の土のうを入れる	凸側堤防 他の工法と併用	くい、割竹、板、土のう、くぎ
		びょうぶ返し工	竹を骨格とし、かや、よしでびょうぶを作り堤防斜面（のり面）を覆う	比較的緩流河川	竹、なわ、ロープ、わら、かや、土のう
き裂	上端（天端）	折り返し工	上端（天端）のき裂をはさんで両肩付近に竹をさし折り曲げて連結する	粘土質堤防	竹、土のう、ロープ
		くい打ち継ぎ工	折り返し工の竹の代わりにくいをを用いて鉄線でつなぐ	砂質堤防	くい、鉄線
	上端（天端） ↳居住側堤防斜面（裏のり）	控え取り工	き裂が上端（天端）から居住側堤防斜面（裏のり）にかけて生じるもので折り返し工と同じ	粘土質堤防	竹、土のう、なわ、ロープ、鉄線
		継ぎ縫い工	き裂が上端（天端）から居住側堤防斜面（裏のり）にかけて生じるもので控え取り工と同じ	砂質堤防	くい、竹、鉄線、土のう
		ネット張り き裂防止工	継ぎ縫い工のうち竹の代わりに鉄線を用いる	石質堤防	くい、金鋼、鉄線、土のう
居住側堤防斜面（裏のり）崩壊	き裂	五徳縫い工	居住側堤防斜面（裏のり面）のき裂を竹で縫い崩壊を防ぐ	粘土質堤防	竹、なわ、ロープ、鉄線、土のう
		五徳縫い工（くい打ち）	居住側堤防斜面（裏のり面）のき裂をはさんでくいを打ちロープで引き寄せる	粘土質堤防	くい、ロープ、土のう、丸太
		竹さし工	居住側堤防斜面（裏のり面）のき裂が浅いとき、堤防斜面（のり面）がすべらないように竹をさす	粘土質堤防	竹、土のう
		力ぐい打ち工	居住側堤防斜面（裏のり）先付近にくいを打ちこむ	粘土質堤防	くい、土のう
		かご止め工	居住側堤防斜面（裏のり面）にひし形状にくいを打ち、竹又は鉄線で縫う	砂質堤防	くい、竹、鉄線、土のう

原因		工法	工法の概要	利用箇所、河川	おもに使用する資材
					現在
居住側堤防斜面（裏のり） 崩壊	崩壊	立てかご工	居住側堤防斜面（裏のり面）に蛇かごを立て被覆する	急流河川	鉄線蛇かご、詰め石、くい、そだ
		くい打ち積み 土のう工	居住側堤防斜面（裏のり面）にくいを打ち込み、中詰めに土のうを入れる	砂質堤防	くい、布木、鉄線、土のう
		土のう羽口工	居住側堤防斜面（裏のり面）に土のうを小口に積み上げる	一般堤防	竹ぐい、土砂、土のう
		つなぎくい 打ち工	居住側堤防斜面（裏のり面）にくいを数列打ちこれを連結して中詰めに土のうを入れる	一般堤防	くい、土のう、布木、鉄線、土砂
		さくかき詰め 土のう工	つなぎくい打ちとほぼ同じでさくを作る	一般堤防	くい、竹、そだ、鉄線、土のう
		築きまわし工	居住側堤防斜面（裏のり面）にくい打ちさくを作り中詰め土のうを入れる	一般堤防	くい、さく材、布木、土のう
その他		流下物除去作業	橋のピアなどに堆積した流木の除去	一般河川	長尺竹、とび口
		水防対策車	現地対策本部の設置	一般河川	指揮車、無線車

資料11－4 水防立入検査証

(表)	(裏)
第 号 水防立入検査員証 所属 職名 氏名 上記の者は、水防法(昭和24年法律第193号)第49条第1項の規定により必要な土地に立ち入ることができる職員であることを証明します。 年 月 日 佐呂間町長 印	水防法(抜粋) 第49条 都道府県知事又は水防管理者は、水防計画を作成するために必要があると認めるときは、関係者に対して資料の提出を命じ、又は当該職員、水防団長、水防団員若しくは消防機関に属する者をして必要な土地に立ち入らせることができる。 2 都道府県の職員、水防団長、水防団員又は消防機関に属する者は、前項の規定により必要な土地に立ち入る場合においては、その身分を示す証票を携帯し、関係人の請求があつたときは、これを提示しなければならない。

縦9センチメートル
横6センチメートル

資料11-5 公用負担権限委任証

第	号
公用負担権限委任証	
住 所	氏 名
職 名	
上記の者に 区域における水防法第28条第1項の権限行使について委任したことを証明します。	
年	月 日
委任者 氏名	印

(縦 9 cm 横 6 cm)

資料11-6 公用負担命令票

第 号

公 用 負 担 命 令 票

住 所

氏 名

水防法第28条第1項の規定により、次のとおり公用負担を命じます。

1 目的物

(1) 所在地

(2) 名 称

(3) 種 類 (又は内容)

(4) 数 量

2 負担内容

(使用・収容・処分等について詳記すること)

年 月 日

命令者

職

氏名

印

(日本工業規格A4版)

資料11-7 水防報告様式例

水防活動実施報告書

年 月 日

作成責任者

出 水 の 状 況									
水 防 実 施 箇 所									
日 時									
出 動 人 員	水防団員	消防団員	その他	合計					
	人	人	人	人					
水 防 作 業 の 概 況 及 び 工 法	箇 所 m 工 法								
水 防 の 結 果	効果 被害	堤防 m m	田 ㎡ ㎡	畑 ㎡ ㎡	家 戸 戸	鉄道 m m	道路 m m	人口 人 人	その他
使 用 資 機 材	か ま す 、 俵					居 住 者 の			
	万 年 、 土 俵					出 動 状 況			
	な わ					水 防 関 係 者 の			
	丸 太					死 傷			
	そ の 他					雨 量 水 位 の 状 況			
水 防 活 動 に 関 する 自 己 評 価 備 考									

(注) 水防を行った箇所ごとに作成すること。

年台風 号における水防活動

(北海道佐呂間町第 消防団・ 年 月 日～ 日)

○概要

佐呂間町消防団は、○年○月○日、台風○号の影響に伴う集中豪雨に際し、延べ第 消防団○○名が出動。町内では、1時間雨量○○mmを超える豪雨により河川が増水。各地で得越水により床上浸水等の被害を受ける危険な状況の中、堤防への土のう積みや住民の避難誘導、人命救助を行い、人的被害の軽減のため活動した。

活動時間	出動延人数	主な活動内容
○/○～○/○ 約12時間	○名	・土のう積み (○○袋) ・避難誘導 (○○世帯) ・排水作業 (○件)

水防活動
又は
被害状況写真

○○川左岸 (○○地先)
堤防巡視

水防活動
又は
被害状況写真

○○川右岸 (○○地先)
月の輪工

水防活動
又は
被害状況写真

○○川左岸 (○○地先)
積み土のう工

水防活動
又は
被害状況写真

○○地区の浸水被害

水防活動実施箇所
地図

12 様式

様式 1 避難所設置及び収容状況

避難所設置及び収容状況	避難所		種別	開設期間	避難の 期間	避難者氏名	物品使用状況		実支出額	備考
	名称	住所					品名	数量		

様式2 避難者カード

避 難 者 カ ー ド					避難所名			
自治会								
世帯主					住所	番地		
					電話	自宅	携帯	
避難家族 の氏名等	フリガナ 氏 名	性 別	年 齢	続 柄	勤務先名 ・就学先名	備考	血液型	
	①	男					A・B・AB・O	
		女					RH+ RH-	
	②	男					A・B・AB・O	
		女					RH+ RH-	
	③	男					A・B・AB・O	
		女					RH+ RH-	
	④	男					A・B・AB・O	
		女					RH+ RH-	
	⑤	男					A・B・AB・O	
	女					RH+ RH-		
避難の交通手段は何を利用しましたか					・バスを利用		・自家用車を利用	
居住せずに食料・物資・医薬品等受給のみを希望する場合					・受給希望（・食料 ・物資 ・医薬品等）			
※避難所を留守にした場合の緊急連絡先を記載してください。 (食料・物資受給のみの方は避難先を記載)								
緊 急 連絡先	連絡先				住所		電話	

※記載された内容については、防災関係で必要な場合に使用することを承諾します。

【記載要領】

自治会：避難する前に住んでいたところの自治会名・班名を記入してください。

世帯主：住民票に記載されている世帯主名を記入してください。

住所・電話：避難する前に住んでいたところの住所・電話番号を記入してください。

避難家族の氏名等：避難された家族全員について記入してください。避難所に居住しないで食料・物資のみを希望される方も同様に記入してください。

氏名：氏名・フリガナを記入してください。

性別：男女の別を○で囲んでください。

続柄：世帯主との続柄について記入してください。

年齢：年齢を記入してください。

勤務先名：勤務されている勤務先名を記入してください。

就学先名：避難する前に通っていた学校名・幼稚園名等を記入してください。

備考：避難所に居住しないで食料・物資のみを希望される方は「居住なし」と記入してください。

血液型：一時帰宅などや緊急の際に必要となりますので、必ず記入してください。

避難の交通手段：自宅から避難所まで来るのに利用した交通手段について、○で囲んでください。

食料・物資の受給：避難所に居住しないで食料・物資等の受給を希望される方は、受給物を○で囲んでください。

緊急連絡先：家族全員が避難所を留守したときに、緊急に連絡するところについて、記入してください。

※避難者カードは防災関係者以外には見せませんので、ご記入をよろしくお願いします。

※記載された内容については、防災関係で必要となった場合に限り使用いたしますので、ご承諾をお願いします。

様式 3 避難所日誌

避難所日誌				避難所名							
年		月		日		曜日		記入者指名			
担当時間 時 ～ 時				担当職員名 (全職員)							
一日の避難者の移動記録											
時現在			時現在			時現在					
世帯数		人数		世帯数		人数		世帯数		人数	
居住せずに食料物資等受給のみを希望している避難者の移動記録											
時現在			時現在			時現在					
世帯数		人数		世帯数		人数		世帯数		人数	
◎病気・事故者の記録											
◎生活の記録											
◎施設関係の記録											
◎入所者からの要望											
◎その他											
◎引継ぎ事項											

様式4 退去者記録簿

退 去 者 記 録 簿						避難所名		移 動 先		
受付日	退去時間	世帯主名	家族名	人数	食料物資 受給確認	種別	移動 先名	住所	電話番号	
/	:				・食料 ・物資 ・なし	・親戚 ・他避難所 ・その他				
/	:				・食料 ・物資 ・なし	・親戚 ・他避難所 ・その他				
/	:				・食料 ・物資 ・なし	・親戚 ・他避難所 ・その他				
/	:				・食料 ・物資 ・なし	・親戚 ・他避難所 ・その他				
/	:				・食料 ・物資 ・なし	・親戚 ・他避難所 ・その他				
/	:				・食料 ・物資 ・なし	・親戚 ・他避難所 ・その他				
/	:				・食料 ・物資 ・なし	・親戚 ・他避難所 ・その他				
/	:				・食料 ・物資 ・なし	・親戚 ・他避難所 ・その他				
/	:				・食料 ・物資 ・なし	・親戚 ・他避難所 ・その他				
/	:				・食料 ・物資 ・なし	・親戚 ・他避難所 ・その他				

様式 5 外出記録簿

外 出 記 録 簿						避難所名		備考
受付日	外出時間	帰着予定 時間	帰着時間	外出目的	氏名			
/	:	:	:	・通勤・通学 ・通院・その他				
/	:	:	:	・通勤・通学 ・通院・その他				
/	:	:	:	・通勤・通学 ・通院・その他				
/	:	:	:	・通勤・通学 ・通院・その他				
/	:	:	:	・通勤・通学 ・通院・その他				
/	:	:	:	・通勤・通学 ・通院・その他				
/	:	:	:	・通勤・通学 ・通院・その他				
/	:	:	:	・通勤・通学 ・通院・その他				
/	:	:	:	・通勤・通学 ・通院・その他				
/	:	:	:	・通勤・通学 ・通院・その他				

様式6 外来受付簿

避難所名	電話番号										
	住所										
外 来 受 付 簿	人数										
	外来者名										
	外来目的 (面会者名)										
	退所 時間	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
	来所 時間	：	：	：	：	：	：	：	：	：	：
	受付日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

様式 7 食料受給者名簿

避難所等 施設名		世帯主の 氏名		月 日			月 日			月 日			月 日			3日間小計			月 日			4日以降小計			合計	実支出額	備考			
				朝		昼		夕		朝		昼		夕		朝		昼		夕		朝		昼				夕		

																		</								

(注) 「備考」欄には、給食内容を記入すること。

[illegible]

様式 9 食料供給集計表

食 料 供 給 集 計 表

令和 年 月 日分集計

施設名	朝食数	昼食数	夕食数	備考
合計				

様式10 物資提供登録一覧

物 資 提 供 登 録 一 覧

提供物資内容	数量	登録団体等名 (連絡先・担当者名)	登録月日 (登録担当者名)	提供依頼月日 (連絡担当者)	物資到着 月 日
		()	()	()	
		()	()	()	
		()	()	()	
		()	()	()	
		()	()	()	
		()	()	()	
		()	()	()	
		()	()	()	
		()	()	()	
		()	()	()	

様式11 生活必需品等給貸与簿

生 活 必 需 品 等 給 貸 与 簿

品名 (○印で囲む)	(購入・受入れ)	給貸与場所（施設等名）
		給貸与管理者名

※受け入れは救援物資等をいう

月 日	受 入 数	払 出 数	残 数	備 考

※備考欄には購入先（受入先）を記入すること。

遺體處理台帳

[illegible]

様式13 行旅死亡人処理台帳

行 旅 死 亡 人 処 理 台 帳

番号	遺体処理 台帳番号	死亡者性別 (推定年齢)	火 葬 月 日 葬儀を行った者	葬 祭 費		備 考
				支出内容等	合計	
		男・女 (才)	年 月 日 佐呂間町長			
		男・女 (才)	年 月 日 佐呂間町長			
		男・女 (才)	年 月 日 佐呂間町長			
		男・女 (才)	年 月 日 佐呂間町長			
		男・女 (才)	年 月 日 佐呂間町長			
		男・女 (才)	年 月 日 佐呂間町長			

(注) 遺体処理に要した費用、火葬場使用料、骨つぼ代は町負担とする。

様式15 障害物除去状況記録簿

障 害 物 除 去 状 況 記 録 簿

住家被害程度 区 分	氏名	除去に要した 期 間	実支出額	除去に要すべき 状 況 の 概 要	備考
		月 日～ 月 日	円		
計	半壊（焼）	世帯			
	床上浸水	世帯			

（注）捜索用機械器具は、借上費の有償無償を問わず記入し、有償は金額を記入すること。

様式16 緊急通行車両確認証明書

第 号		年 月 日	
緊急通行車両確認証明書			
		知 事 公安委員会	印 印
番 号 標 に 表 示 さ れ て い る 番 号			
車両の用途（緊急輸送を行う車両にあつては輸送人員 又は品名）			
使 用 者	住 所		
	氏 名		
通 行 日 時			
通 行 経 路		出 発 地	目 的 地
備 考			

様式17 輸送記録簿

輸 送 記 録 簿													
輸送 月日	目的	輸送区 間 (距離)	借上等			修繕				燃料費	実支出 額	備考	
			使用車両等 種類	台数	金額	故障車両等 名称 番号	所有者 氏名	修繕 月日	修繕費				故障の 概要
					円					円			
計													

(注) 1 「目的」欄は主なる目的（又は救助の種類名）を記入すること。
 2 都道府県又は市町村の車両等による場合は「備考」欄に車両番号を記入すること。
 3 借上車両等による場合は有償又は無償を問わず記入すること。
 4 借上等の「金額」欄には、運送費又は車両等の借上費を記入すること。
 5 「故障の概要」欄には、故障の原因及び故障箇所を記入すること。

(救別種別)															
住所	氏名	日額	月 分								基本賃金		割増賃金		備考
			日	日	日	日	日	日	日数	金額	時間	金額			
										円			円		
計	人	円	人	人	人	人	人	人	人						

様式19 学用品給与記録簿

[illegible]

様式20 林野火災被害状況調書

(月 日提出補正分)

林 野 火 災 被 害 状 況 調 書

市町村 月 日提出

被害地	市郡 町村字				出火地の所有区分	有林地			
出火日時	年 月 日 時 分				鎮火日時	年 月 日 時 分			
出火原因		火入目的		火入許可の有無		出火の覚知方法			

1 林野被害内訳 立木地 ha、その他 ha、計 ha

所有区分	天然林、人工林、無立木地原野、牧野の別	人工林の場合のみ		面積		被害材積	被害額	焼失材積	損害額	保険加入の有無
		樹種	林令							
				ha		m³(本)	千円	m³(本)	千円	
計										

2 そのほかの被害

物的被害									人的被害	
種類	数量	金額	種類	数量	金額	種類	数量	金額	死 者	死者の生じた理由
		千円			千円			千円	人	
									負傷者	人

3 その他

(1) 消火活動状況
 ア 消防団、官公署 出動延べ人数 人、消防車 台、(その他)
 イ 自衛隊(出動要請 月 日 時、駐屯地名)
 (ア) 地上部隊、出動延べ人員 人、
 (イ) 空中消火 ヘリコプター 機、飛行延べ回数 回
 (使用消火剤 MAP kg、CMC kg、着色剤 kg)
 (ウ) その他 出動延べ人員 人
 (うち森林愛護組合員の出動手当の要否、出動延べ人員 人)

(2) 出火時の気象状況
 ア 天気 イ 気温 °C、ウ 最小湿度 %、エ 風速 m、オ 風向 風

(3) 今後の状況

(4) 失火者の住所、職業、年齢

(5) その他参考事項

様式21 救急患者の緊急搬送情報伝達票

第 報

要請日時	令和 年 月 日 時 分				
1 要請市町村名	佐呂間町	電話		FAX	
担当課・職・氏名		職名		氏名	
2 依頼病院名				電話	
所在地				FAX	
担当医師名・科名			担当課 氏名		
3 受入病院名				電話	
所在地				FAX	
担当医師名・科名			直通内線番号		
受入病院の了承	☐ 有 ☐ 無				
4 患者氏名	生年月日	年 月 日	歳		
	体重	kg	☐ 男 ☐ 女	職業	
住所				感染症： ☐ 無 ☐ 有	
病名			☐ 入院中 ☐ 外来： 月 日		
経過				血圧： mmHg	脈拍： 回/分
				呼吸： 回/分	体温： ℃
				意識レベル（JCS）：	
航空機による搬送 が必要な理由	☐ 緊急性 ☐ 搬送時間短縮 ☐ 搬送安定性 ☐ その他 (主な理由：)				
気圧変化	☐ 影響無し ☐ 影響有り ()				
5 受入病院選定理由（①、②のいずれか記載）					
☐ ①高次・専門医療機関での治療が必要なため（治療内容：)					
☐ ②その他（具体的な理由：)					
6 付添添乗者	氏名	性別	年齢	体重	その他
医師			歳	kg	☐ 研修医（理由：)
看護師			歳	kg	
付添人			歳	Kg	続柄：
医師・看護師の所属病院： ☐ 依頼病院 ☐ 受入病院 ☐ その他病院名					
7 運航上の必要事項 機内に積載する医療資機材等					
資機材名	有	数量	総重量	要電源	特記事項
①点滴			kg	☐	☐ 輸血ポンプ有あり 80以上サイズ × (cm)
②シリンジポンプ			kg	☐	
③酸素ボンベ			kg	☐	☐
④モニター類			kg	☐	☐ 心電図 ☐ その他
⑤保育器			kg	☐	サイズ W × L × H (cm)
⑥人口呼吸器			kg	☐	サイズ W × L × H (cm)
⑦救急バック			kg	☐	
⑧その他			kg	☐	
引継場所 (現地離着陸場)	依頼病院： 受入病院：			メモ	

※市町村はNo.1～No.7の項目を記載の上、要請すること。（☐欄はレ点又は■で該当項目をチェック）

※No.4「経過」、No.5についてラン内に記入しきれない場合は、別紙（任意）により送付すること。

様式22 自衛隊災害派遣要請の依頼について

第 号
年 月 日

北 海 道 知 事 様

佐呂間町長 印

自衛隊の災害派遣要請について

—
このことについて、次のとおり緊急措置が必要なので、自衛隊の災害派遣の要請を依頼します。

記

- 1 災害の状況及び派遣を要請する事由
- 2 派遣を必要とする期間
- 3 派遣を希望する区域及び活動内容
- 4 派遣部隊が展開できる場所
- 5 派遣部隊との連絡方法、その他参考となる事項
(作業用資材、宿舎の準備状況、現地の連絡責任者等)

様式23 自衛隊災害派遣撤収要請の依頼について

第 号
年 月 日

北 海 道 知 事 様

佐呂間町長 印

自衛隊の災害派遣部隊の撤収要請について

年 月 日付けをもって要請を要求した自衛隊の災害派遣については、目的を達成したので、次の日時をもって撤収要請されるよう依頼します。

記

1 派遣を必要とした事由

2 撤収要請日時 年 月 日 時 分

被災者アセスメント調査票

記入者のお名前:	記入日時: 月 日 時 分		
記入者の生年月日:	年齢:	性別:	
自宅住所:	固定電話:		
	携帯電話:		
記入者を含む被災された方の世帯人数:			

被災により使用できなくなったライフライン	☐ ガス ☐ 水道 ☐ 電気 ☐ 下水道 ☐ 固定電話 ☐ 携帯電話 ☐ インターネット通信
家屋(建物)の被害の状況	☐ 家屋に極めて大きな被害があった (家が流れてしまった、家が倒壊した、家が土砂によって埋没したなど) ☐ 家屋に修繕が必要な程度の大きな被害があった(瓦が落ちた、外壁がはがれたなど) ☐ 家屋に被害があった (被害の概況:) ☐ 被害はなかった

2 現在の御自身の状況や、御自身と一緒に避難している御家族の状況

現在の宿泊場所	☐ 避難所 ☐ 自宅 ☐ 知人宅 ☐ 車中泊 ☐ その他		
避難所の利用	☐ 利用している ☐ 応急給水 ☐ 食事 ☐ トイレ ☐ 生活物資 ☐ 入浴 ☐ 行政やボランティア等から提供される各種の情報 } ☐ 利用していない		
医療サポートを利用されているか。	☐ 人工呼吸器 ☐ 在宅酸素 ☐ 透析 ☐ インスリン注射 ☐ 緊急性のある精神疾患 ☐ 緊急治療歯科疾患 ☐ 要緊急処置妊婦 ☐ 定期的投薬が必要（現在、〔 中断 ・ 継続 〕） ☐ 降圧薬 ☐ 糖尿病 ☐ 向精神薬 ☐ その他 〔 医薬品名： }		
かかりつけの医療機関名			
訪問看護などの医療サービスを利用されているか	☐ 有 〔 利用している事業所名： } ☐ 無		
妊産婦や乳幼児の方がいるか	☐ 有 ☐ 無	食物アレルギーを有しているか	☐ 有 〔 原因食物 } ☐ 無
要介護（支援）認定を受けているか	☐ 有（ ☐ 要支援1 ☐ 要支援2 ☐ 要介護1 ☐ 要介護2 ☐ 要介護3 ☐ 要介護4 ☐ 要介護5 ☐ 介護区分不明） 〔 利用している居宅介護支援事業所名： } ☐ 無		
障害等手帳をお持ちか	☐ 有 ☐ 身体障害者手帳 ☐ 精神障害者保健福祉手帳 ☐ 療育手帳 } 〔 具体的な障害の種類等： } ☐ 身体障害 ☐ 知的障害 ☐ 精神障害 ☐ 発達障害 ☐ 無		
デイサービス・ヘルパーなどの福祉サービスを利用されているか	☐ 有 ☐ 被災前と変わらず利用の見通しが立っている ☐ 利用の見通しが立たない ☐ わからない } 〔 利用している事業所名： } ☐ 無		
その他			

本調査票に記載した情報を、地方自治体が設置する避難所の管理者、当該地方自治体の災害対策本部及び保健医療福祉調整本部等において共有することに同意します。

年 月 日 氏名 _____

(別添2) 避難所におけるラピッドアセスメントシート

施設・避難所等ラピッドアセスメントシート (OCR 対応様式)																					
□の欄は、使用可能・該当・対応済であれば、✓を入れてください ver. 190115																		避難所コード 			
* A: 充足 B: 改善の余地あり C: 不足 D: 不全																					
調査日		2 0		年		月		日		#A-D選択式の項目が全てA評価になるまで連日記入											
		AM		PM		時		分		#人数は概算可											
調査者氏名										調査者所属											
電話連絡先																					
施設名										固定電話											
所在地										携帯電話											
										FAX											
避難所運営組織										□		代表者名									
避難者数(人)		(A)		内訳		男性(人)		内訳		女性(人)											
食事提供人数				避難所以外の避難者数(推計)※																	
※食事提供数(B) - 避難者数(A)																					
避難者数		昼間人数(人)				夜間人数(人)				車中泊人数(人)											
(再掲)		75歳以上(人)				未就学児(人)															
ライフライン/通信		飲料水		A~D		食事		A~D		使用可能トイレ		A~D									
		電気		A~D		ガス		A~D		生活用水		A~D									
		固定電話		□		携帯電話		□		衛星電話		□		データ通信		□					
医療支援		救護所設置		□		医療チームの巡回		□													
避難所の環境		過密度		A~D		毛布等寝具		A~D		室温度管理		A~D		手洗い環境		A~D					
		トイレ掃除		□		土足禁止		□		下水		□		ゴミ集積場所		□		館内禁煙		□	
		男女別更衣室		□		男女別トイレ		□		男女別居住スペース		□		授乳室等母子専用スペース		□		障害者用トイレ		□	
		感染予防・清掃用物品		□		パーティションによる区切り		□													
その他緊急事項																					

問合せ先：芝浦工業大学 システム理工学部
市川 学 (m-ichi@shibaura-it.ac.jp)